

学習課題（小学校 6 年生）



【国語】計画を立てて、少しずつ取り組んでいきましょう。

<学習内容>

◆「天地の文」（教科書 66～67 ページ）に取り組めます。

(1) 66、67 ページにある「天地の文」を声に出して一度読みます。

※66 ページにある QR コードから、朗読のお手本を聞くことができます。可能な場合は、先にお手本を聞いて、今とは違う言葉や漢字の読み方を確かめてから、音読しましょう。

(2) 67 ページにある内容の解説（大意）を読み、次の質問の答えをノートや取組シートに書きましょう。

①日輪は、何を表していますか。

②本当の春のおとずれは、何月ですか。

(3) もう一度、声に出して読みます。そして、言葉の響きやリズムについて、感じたことをノートや取組シートに書きましょう。

(4) 最後の一文（「稚き時に怠らば～なかるべし。」）をノートや取組シートに書き写し、自分が感じたことをその横に書きましょう。

※最後の一文は、福沢諭吉さんの意見です。この考えを知って、どのように感じましたか？

※67 ページの説明を確かめながら、考えましょう。

(5) 気に入った部分を次から選んで繰り返し音読し、暗唱に挑戦してみましょう。覚えたら、お家の人に聞いてもらいましょう。

A：66 ページ 1 行目「天地日月。」～3 行目「夜くらし。」まで

B：66 ページ 3 行目「一昼一夜」～5 行目「一ヶ月、」まで

C：66 ページ 5 行目「大と小とに」～7 行目「一年五十二週日、」まで

D：66 ページ 7 行目「第一月の」～67 ページ 2 行目「三百六十日、」まで

E：67 ページ 2 行目「一年一年」～3 行目「甲斐なかるべし。」まで

◆「わたしたちにできること」で学習する予定の新出漢字（「源」～「模」）を練習します。（読み方や書き順などは、300 ページに載っています。）

<保護者による関わり方のポイント>※可能な範囲でお願いします。

- ・教科書 66 ページに掲載されている QR コードから、「天地の文」の朗読を聞くことができます。文語調の言葉の響きやリズム、漢字の読み方などを確認する際に、御活用ください。
- ・言葉の響きやリズムに親しみながら音読したり、解説を読んだりすることを通して、昔の人の物の見方や感じ方について知ることが、「天地の文」の学習の重点です。楽しんで音読している様子が見られた場合には、大いに褒めてあげてください。